

ホーム名：グループホーム東神田の里 あかしあ通り					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に沿ったユニット内で方針を決め、ユニット内で共有している。変更が必要な場合は、ユニット会議内で話し合うようにしている。	法人全体の理念と、各ユニット別の理念に基づく標語が作成され、施設内に掲示されている。職員のみならず、家族も目に触れることができるようになってきている。	継続して、職員間での理念の共有化とその実践を推進する取り組みに期待したい。 又、この取り組みを通じて、施設のサービス価値向上につなげていかれることを願う。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて自治会や地域行事を共有し入居者と共に積極的に参加している	利用者と自治会の行事に参加したり、地域住民の方が、施設側の行事に参加したり等行事を通じた相互交流が行われている。	継続して、地域住民との交流を深める様々な行事を企画しながら、その結果の共有化（効率化）充実にも期待したい。例えば、SNS（フェイスブック等）活用による行事企画、行事結果発信等。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方には広報や自治会掲示板を通して認知症に対する相談窓口となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会の会長、副会長、地域包括支援センターの方々に出席していただき、入居者には、できる限り参加していただいている。意見や要望を伺い情報を公開している。ご家族の参加が難しい状況ですが、参加者と話し合い、サービス向上に繋がるように取り組んでいる。	会議は、2カ月に1回、開催されている。会議では、報告以外に運営面やサービス向上につながる情報交換や意見交換も活発に行われている。	家族の参加が難しい状況ではあるが、家族との情報連携の充実化（効率化）にも期待したい。例えば、ITを活用した動画による会議風景の配信等。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者へは、運営推進会議の議事録を届けている。また、会議の出席をお願いしているが、都合上なかなか参加していただけていないが、地域包括センターと連携を取れるよう体制を整えている。	市担当者に、施設訪問や運営推進会議への出席を呼びかけているが、調整がつかず、参加できていないが、施設側からは、市役所に出向き、情報収集や連携に努めている。	継続して、運営推進会議への市担当者の参加を呼びかけながら、会議結果の連携充実化（効率化）にも期待したい。例えば、ITを活用した動画による会議風景の配信等。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し内部研修会を開催しユニット会議で各職員に報告を行っている。玄関の開錠については実施に至っていない。	各階単位で施錠されているが、利用者は、フロア内を自由に行動できる状態にあり、職員はその行動を制限することなく、見守りや必要に応じて介助支援を行っている。	継続して、委員会や研修会等の報告を通じて、職員のケア実践につなげながら、情報の共有充実化（効率化）にも期待したい。例えば、ITを活用した動画による内部研修会風景の配信等。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し外部有識者に来所頂き研修会を実施し入浴、排泄介助の際に身体チェックを行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の成年後見人の方とは施設管理者を窓口として不明な点はその都度連絡している。また、年間研修計画に権利擁護等の知識向上機会を設定し職員に参加を促している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には必ず事前面接を行っている。契約の締結時や改定等があった場合は書面を作成し説明をして理解していただいている。また、後日、疑問点がある場合は、何度も説明をさせていただきすぐに回答できない場合は調査、確認し改めて説明するよう努めている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ユニット入口には意見箱を設置させて頂きご意見を聞かせて頂く様にしている。また、来訪が少ないご家族にも入居者生活情報を郵送させて頂き、生活状況をお知らせしています。</p>	<p>利用者ごとに担当者を決めて、この担当者が家族との窓口として、家族からの意見等収集されている。又、各ユニット単位にホーム便りを家族に送付し、意見等を聞かせてもらえるように努めている。</p>	<p>継続して、家族との交流を通じた意見等収集に努めながら、家族とのコミュニケーション手段の充実化（効率化）にも期待したい。</p> <p>例えば、SNS（フェイスブック等）活用によるホーム便り発信や家族からの意見収集等。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニット会議にて業務に関する疑問や不明点を出し合いユニット内で解決策を討議しユニット内で解決できない内容についてはリーダー会議にて起案し施設管理者を通じ上申し反映するように努めている。</p>	<p>各種会議や委員会活動を通じて、管理者は、職員からの意見を収集、集約し、運営に反映できるように努めている。</p>	<p>継続して、様々な場を通じて、意見収集をしながら、収集方法の充実にも期待したい。</p> <p>例えば、提案書（運営課題整理、原因分析、課題解決策、コスト、スケジュール、体制等）として、職員から受け付ける等。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の要望を事前に聞き取りシフトを作成し作成後に変更が生じる場合は職員間で勤務変更を行っている。職員が向上心を持って働ける様施設内研修計画を作成している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内年間研修計画を作成し積極的に参加できるようなシフト作成を行っている。また、外部研修への参加も事前に案内し参加を促している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>年間研修計画内に外部施設での勉強会を組み入れ、同業者と交流を深める機会をつくっている。また、隣接の施設職員間でも訪問の機会を設け相互にサービス向上の取り組みを実施している。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者には必ずユニット職員が同席し面談を行っている。面談時には御本人から要望や不安な事を聞かせて頂き説明し納得して頂いている。御本人が安心出来ていない場合は施設管理者やユニット職員が御本人とご家族に説明し安心、納得して頂く様に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談時には不安な事を聞き取り説明を行っている。説明後でもご家族に不安が残っている時は訪問または来所して頂き施設管理者も交えて説明を行い安心して頂いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居希望者がまず必要としている支援を本人や家族から聞き取り外部サービスが必要な場合は介護支援専門員や施設管理者と協議し利用の検討を行い適切なサービスの対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者ができることは、手伝っていただき好きなことは自由に組み込んでいただいている。毎月2回の手作り食では、調理の仕方を教えていただく等人生の先輩として尊重し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者の得意な事や好きな事をしながら故郷や家族の事をお聞きし職員も家庭や生い立ちなどを話している。また、手作り食の際には味付けや料理方法について会話できる良好なが関係を築いている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人、親戚の方がお見えの際は、ご本人と訪問者のお話を聞かせて頂きどのような関係かを理解し関係性が途切れない様に努めている。</p>	<p>利用者の友人や知人の施設訪問時も明るく元気な挨拶で出迎え、利用者との架け橋的立場で振る舞い、利用者との関係維持継続を支援されている。</p>	<p>継続して、利用者のこれまでの関係維持をしながら、地域との交流を通じた新たな関係構築にも取り組んでいかれることに期待したい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お話しが好きな方は隣同士に座って頂き、ゆっくり過ごされる方は孤立されな程度に職員が声掛けや傾聴を行い、利用者同士の関わりを促し支え合えるように支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後新しい事業所へ入所された方には転居先へ情報提供を行い、自宅に戻られた方にはご家族やご本人より相談を受けた場合はお話しを聞かせて頂き継続的な支援に努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とゆっくりとお話をする機会を設け入居後の希望や意向をお伺いする。ご本人に伺うのが困難な場合はご家族に伺い本人の意向の把握に努め、不穏が強く理解して頂けない場合には会議内で話し合い、できる限り本人本位となるように努めている。	本人の思いや意向把握に、本人との会話を重視しながら、日常の行動の変化にも注意しながら、把握に努めている。	継続して、一人ひとりの思いや意向の把握に努めながら、その方法の充実化（効率化）にも期待したい。 例えば、研修を受けられたユマニチュードに本格的に取り組んでみる等。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時点で生い立ちや家族構成などフェイスシートを用いて詳細に伺っている。また、ご家族やご親戚の来所時にもお話を伺い入居前の生活が継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態に変化がある場合は、一括管理シートに記入し、申し送りノート等で内容を確認し、カンファレンス等で状態を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は毎月の会議でカンファレンスを実施し3ヶ月に一度作成している。必要時には、サービス担当者会議やモニタリングを実施し、職員や入居者の意見やアイデアを取り入れ現状に即した計画書を作成している。	介護計画書では、職員の意見も重視している。管理者は、職員の気づきを大切にしながらも思い込みには注意されている。	継続して、利用者の変化に注意しながら、現状に即した計画書づくりとともに日々の変化の記録も大事となるので、その充実化（効率化）にも期待したい。 例えば、ボイスレコーダー活用による記録の遅延防止、正確性向上等
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一括管理シート、申し送りノートを活用し入居者情報を共有している。毎月カンファレンス会議で話し合い、実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	洗髪用品、嗜好品等を本人や家族から伺い本人、家族が購入困難な場合は職員が代って購入し柔軟な支援やサービスの提供をしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の皆様に協力して頂き、学校行事や地域行事に参加し、社会福祉協議会を通じて地域ボランティア受け入れ希望を伝え、隣接の施設と共同開催で演芸会や演奏会に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時にご本人、ご家族にかかりつけ医の確認を実施している。入居後も適切な医療を受けて頂ける様に管理医師、看護師と連携しご本人、ご家族に説明を行い適切な医療機関を受診して頂けるように支援している。	法人母体の総合病院と提携歯科がかかりつけ医として定期的に利用者を往診。家族への受診状況の説明も行われている。	運営推進会議等を通じて、協力医療機関からの情報等も連携し、利用者や家族への医療面での安全安心のさらなる向上にも期待したい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>入居者一括管理シート、申し送りノートを活用し情報や気づきを介護職員間で共有し訪問看護師に伝達し相談している。訪問看護師より主治医の診察が必要と判断の場合は往診日時にとられることなくその都度、提携病院への受診を行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入退院時には、必ず職員が付き添い病院と施設の相互間で情報を伝達する様にしている。入院後は介護サマリーを直ぐ提出し病院関係者とは、介護職員が病院訪問時や電話等で情報共有している。また、施設管理者へその都度、入院中の状態や退院時期についても相談している。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期はサービスの変更を行い、事業所が今できることを十分説明をした上で、関係者ができるだけ利用者やご家族の希望に添えるよう考慮し、方針の決定を行い、支援できるように取り組んでいる。</p>	<p>施設としての重度化や終末期の運営規定策定等はこれから取り組んでいかれる。家族からは、看取りの要望もあり、現在は、利用者や家族の意向を踏まえ、母体医療機関とも連携し、できるだけ希望に添えるよう努めている。</p>	<p>母体医療機関と緊密に連携しながら、利用者と家族の意向を踏まえた最善策を検討つつ、施設としての対応方針策定に向けても取り組んで行かれることに期待したい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応マニュアルを作成している。また、施設内年間研修計画にも応急手当や初期対応の研修を組み入れている。現在、救命講習修了者が在職中である。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を実施し、昼夜の避難誘導、避難経路を確認、共有している。また、隣接の施設とも連携し、安全に速やかな避難誘導ができるよう努めている。</p>	<p>隣接の特養とも連携し、年2回の消防訓練を実施されている。今後は、消防以外に水害等に備えた訓練も計画されている。</p>	<p>継続して、運営推進会議等を通じて地域への災害対策訓練告知や地域との協力関係を深めていながら、その記録と次回への改善策検討の充実化（効率化）にも期待したい。 例えば、ビデオやITを活用した動画による災害対策訓練風景の記録等。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ごとに声掛けや誘導の方法を会議で話し合いその人らしさに沿った対応を行っている。また、トイレ誘導時は、できる限り他者に分からないようトイレへ誘導を行っている。	利用者の立場で考え、特に利用者が不快と感じるような言動を慎むよう注意している。トイレ介助でその効果が現れている。	継続して、一人ひとりの人格の尊重やプライバシー確保に努めながら、その方法の充実化（効率化）にも期待したい。例えば、研修を受けられたユマニチュードに本格的に取り組んでみる等。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に対して常に複数の選択肢を提案し自己決定ができるように支援している。また、ゆっくりとお話をする機会を設け希望の表出を得る機会を持つよう努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝といった日常の暮らしを入居時に聞き取りその人らしい暮らしを継続して頂けるよう食事提供時間や就寝前介助など柔軟に支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で整容できる様に嗜好品を居室内洗面台へ設置し声掛けを行っている。また、希望に応じて訪問理美容を利用してその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度は利用者と職員が調理する手作り食を実施している。また、おやつの中には季節に合ったお菓子を提供し四季を感じ食事を楽しんで頂けるよう支援している。月に二度の実施が出来ていない。	献立表は、見やすく写真付きで、利用者が食事を楽しむにできるようなものを用意されている。又、利用者と職員が協力して、手作り食イベントを行い、食事づくりを楽しむ機会も定期的に設けている。	継続して、手作り食イベントを充実されることに期待したい。例えば、地域の方にも参加、協力して頂き、地域との交流も深める等。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事、水分量の把握は確認表を用いて常時確認できるようにしている。水分補給については複数の飲料を用意し選択できるように支援している。水分、食事に著しい低下がある場合は訪問看護師や主治医と相談し医療的処置を行っている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、就寝前には義歯洗浄剤を用いて清潔保持を行っている。希望者には毎週火曜日に訪問歯科診療を受診して頂き、口腔内の清潔の支援を行っている。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	水分、排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握に努め適時の声掛けを行い排泄介助を行っている。尿意、便意のある方にはトイレでの介助を行い自立支援に努めている。	利用者の排泄自立支援に力を入れており、その介助支援には、手間隙を惜しまず、取り組んでいる。排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンの把握をしながら、その整備も怠らないようにしている。	排泄介助での配慮は多岐にわたり、又、その記録は、排泄の自立支援に欠かせないものとなるため、その正確な記録の効率化にも取り組んでいかれることに期待したい。例えば、ボイスレコーダーの活用による記録の遅延防止、正確性向上等
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や訪問看護師と連携し食事形態や水分補給方法等について工夫している。介護職だけでは不十分な場合は主治医や訪問看護師に相談を行い対応している。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>決められた時間枠にとらわれることなく入浴管理シートに基づき利用者の希望を伺い入浴を実施している。入浴されない方には足湯や清拭を実施し清潔保持を行っている。</p>	<p>利用者一人ひとりの入浴希望は、管理シートで記録されている。体調不良等で入浴できない場合でも清拭介助を行い、清潔で快適に過ごして頂けるよう努めている。</p>	<p>継続して、シャワーキャリー等利用者が安全安心に入浴を楽しめるよう入浴介護用品の充実化にも取り組んでいかれることに期待したい。</p>
----	----	--	--	---	---

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日々の状態や今までの生活習慣を重視し状況に応じて居室で休んで頂いている。日中に休まれる方は昼夜逆転とならないように休息時間を決め離床を促している。就寝時間については利用者に伺い居室へ誘導し休んで頂いている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居者個々の服薬情報は決められた場所に保管し直ぐに確認できるようにしている。また、往診時は医師上申事項と指示内容を書面で記録し保管している。服薬内容変更後の心身変化については一括管理シート等を用いて共有、確認している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>職員間で意見を出し合い塗り絵や壁画作成などをレクリエーションとして実施し張り合いを感じて頂けるよう支援している。気分転換の支援として近隣への散歩や自治会行事の参加も実施している。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天候を考慮し散歩の声掛けを行っているが本人の希望により公平に実施できていない。家族から外出希望がある場合はお見送りや送迎手配を支援、実施している。</p>	<p>施設は、閑静な住宅地にあり、利用者は、手軽に職員と近隣の散歩を楽しんでいる。散歩に出られない場合でも1Fのテラスで、ティータイムを楽しんでいる。</p>	<p>継続して、日常的な外出支援をしながら、その充実化（効率化）にも期待したい。例えば、隣接のグループホームや特養との利用者の交流を通じた外出の充実等。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つ事の重要性については職員の理解はあるが家族より紛失が不安との申し出により施設管理となっている。ただし、買い物時は職員が同行し支払い等の支援を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や友人から電話や手紙の連絡があった際は利用者の意向を伺いお話を返信を行っている。本人が困難な場合は職員が代弁者や代筆者となり関係が途切れないよう支援している。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間においては、時間帯に応じて職員がカーテンで光の調整を行い入居者が心地良く過ごせるよう工夫している。また、フローアーには季節に応じた作成物を利用者と作成し飾ることで季節感を感じる環境作りをしている。</p>	<p>利用者と職員で、季節感を演出できるように飾りつけ等を共同で考えている。清掃も行き届いており、室内温度や湿度にも注意されているため、感染症の防止もできている。</p>	<p>継続して、利用者と職員間での共有空間づくりに取り組みながら、第三者の意見も取り入れてみる等による充実化（効率化）にも期待したい。例えば、自治会を通じて、地域住民からの意見を頂く等。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られた共用空間において一人で過ごして頂けるスペースの確保は困難であるが、要望を伺い定期的にテーブル位置や座席位置を変更し思い思いに過ごせる工夫をしている。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族の写真や思い出の品をお持ち頂き本人の意向を伺いながら心地よい空間となるよう工夫している。</p>	<p>利用者一人ひとりの個性が演出できている居室となっている。ベッドで過ごすことが多い利用者は、定期的なシーツ取替により、衛生的で快適に過ごされている。</p>	<p>継続して、利用者とその家族、職員間で居心地よく過ごせる居室づくりに取り組みながら、認知症の改善につなげていかれることにも期待したい。</p> <p>例えば、利用者の症状に応じた居室づくり。（見当識障害改善対策等）</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレの場所が理解困難な利用者に向けて場所を大きく図案化し、混乱が少なくなる様に工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

